

おおもと

ん！もどしりたい

××××★××× ⑩

これまで、開祖さまについていろいろなお話を聞いたモンちゃん。昔の生活の様子も知ることができ、とても勉強になったようです。さて、ここからは大本をつくったもう一人の人物…聖師さまのお話。今度はどんな発見があるのかな？



モンちゃん



おじいちゃん



モン うくん、もう一人、大本をつくった人…？
分らないなあ。
おじい ほれ、いつもお写真にごあいさつしとるじゃろ。開祖さまの次にごあいさつしているのはどなたかな？
モン あ、聖師さま！
おじい その通りじゃ。



なるほこ〜、
聖師さまだったのかあ

モン 聖師さまは、開祖さまの子供…？ じゃないよね。
おじい 聖師さまは、大本の聖地・天恩郷がある亀岡でお生まれになったんじゃ。開祖さま六十一歳、聖師さま二十七歳のときに、お二人は初めて対面された。

モン それまでは、全然知らない人同士だったんだ。

おじい ふむ。では、聖師さまについてお話しするとしてよう。

聖師さまは亀岡の穴太という村に、今から百四十七年前にお生まれになった。モンちゃんは、聖師さまのお名前を知っておるかの？

モン そういえば、聖師さまとしか言ったことがないかも…。

おじい 出口王仁三郎というお名前じゃ。しかしこれは大本に入り、二代教主さまとご結婚された後のこと、それまでは上田喜三郎というお名前だったんじゃ。

モン ぜんぶが変わっちゃったんだ。

おじい 確かにの〜(笑)。



こんな難しい歌、覚えただあ。坊主めくりなら得意なだけとあ…。

それで、聖師さまが誕生されてから数カ月後、おじいさんである吉松さんが亡くなってしまいうんじゃが、亡くなる前に、聖師さまのお父さんとお母さんに、この孫は必ず天下に名を現す者になる。十分に気を付けて育ててくれと言われたそうじゃ。そして、その言葉通り、聖師さまは幼いころから大変、優秀なお子さんだったそうじゃよ。

モン へ〜、すごいなあ。

おじい それは、おばあさんである宇野さんの影響が大きいようじゃ。

文字の読み方、書き方、百人一首の歌まで、全部、おばあさんから教えられたんじゃ。

モン おばあちゃんも、とっても頭のいい人だったんだね。

おじい こんなエピソードがあるぞ。村の人たちが井戸を掘っていると、喜三郎少年がやってきて、地面に耳を当てた後、そんな所を掘ってもだめ、ここを掘ってと教えた。そうすると本当に水が出て、大人たちは驚いたということじゃ。

モン まるで、魔法使いみたいだね！ 他にはどんなお話があるの？

おじい ふむふむ。では、お茶でも飲みながら話すとするかの〜。



教主さまたちについて分からないこと、疑問に思ったことは、どんどんお手紙で送ってね。待つてまーす！！

〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのよ」編集室
「もつとしりたい おおもと」係



あ〜、しつうにやろ〜
わしの案力が知られたらついにやろ〜



おじいちゃん、坊主めくりし〜。
おじいちゃんには勝てる気がする

ん！もどしりたい

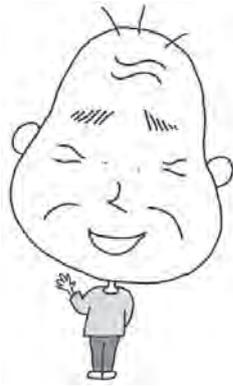
おおもと

××××★××× ①

聖師さまのご幼少時代のお話は、モンちゃんの好奇心をくすぐるものばかり！ `早く聞かせてっ！、とおじいちゃんの話に聞き入るのでした。そして、まだまだ出てくる驚きのエピソードに、モンちゃんはただただ感心するばかり…。



モンちゃん



おじいちゃん



カタカナの勉強をしているのさ...



モン 聖師さま、他にはどんなすごいお話があるの？
おじい 小学校に入られた時、病気をされての。それが原因で学校にほとんど行けず、同じ年の子供たちより三年も勉強が遅れてしまったんじゃ。
モン それは大変だね。
おじい じゃが、聖師さ



今度は何が始まったの〜？話、続けてもいい？

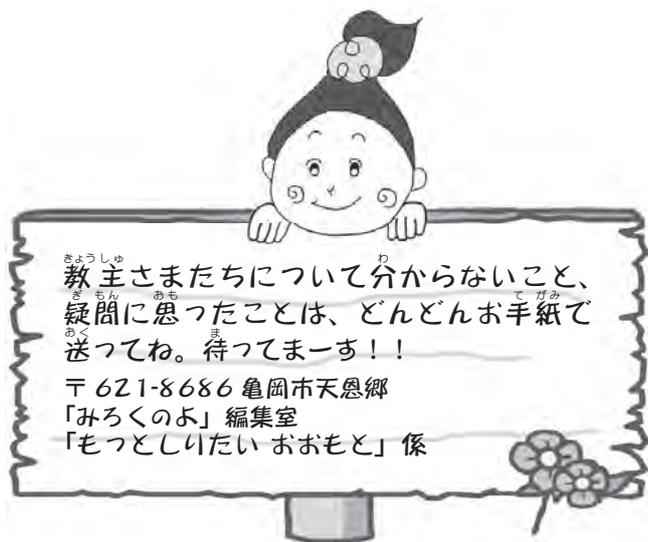
まは持ち前の実力でどんどん進級され、同級生たちを追い越された。
そして十二歳の時じゃ。
当時の学校では、校長先生を含め三人の先生たちがそれぞれのクラスを担当していた。そのうちの一人の先生の授業中に、その先生が教科書に出てくる人物の名前を読み聞

ちが 違えてしまったそうじゃ。
モン へー、先生でもそ
 ういうことがあるのねー。
おじい それで聖師さま
 はすかさず、その間違
 いを正されたそうなんじ
 ゃが、その先生は耳を貸さ
 なかった。
モン えー、ひどいなー。
おじい まあ、先生も、
 間違っているはずはない
 と自信があったんじやろ
 う。結局、聖師さまと先
 生の言い争いになり、校
 長先生まで駆け付ける騒
 ぎになって、最後は校長
 先生によって、聖師さま
 が正しいということが証
 明されたんじゃが…。
モン 良かった、良かっ
 た。
おじい うーん、しかし
 これがもとで、聖師さま
 はこの先生から嫌がらせ
 を受けるようになってし



まわれてのー。
モン うわー、かわいそ
 うに…。
おじい それで、聖師さ
 まもとうとう耐えかねて、
 ある時、仕返しに先生に
 いたずらをしてしまうん
 じゃが、この騒動がきつ
 かけで、聖師さまも先生
 も、学校を辞めさせられ
 てしまったんじや。
モン えー、そうなのお！
おじい しかし、ここか
 らが面白いところでの。

聖師さまは、辞めさせら
 れた先生の代わりに、今
 度は教員としてまた学校
 へ戻られることになった
 んじや。
モン え？ 学校の先生
 になっちゃったってこ
 と？ まだ子供でしょ？
おじい 十二歳じゃから
 なあ。昔は今みたいに制
 度が整っていなかったか
 ら、免許がなくても大丈
 夫だったんじやろうが、
 それにしても、子供が教
 員になるのは、やはりす
 ごいことじゃ。
モン うんうん。聖師さ
 まが、どれだけ賢い人だっ
 たのか、よくわかりま
 した！
おじい そうか、それは
 良かったのお（笑）。



子供ながらに小学校の先生を務めるなんて、聖師さまって本当にすごい！ …と、興奮気味のモンちゃん。そんなモンちゃんの姿に、おじいちゃんも大張り切り！ さあ、次はどんなエピソードが飛び出すのでしょうか。



モンちゃん



おじいちゃん



おじい 教員として小学校に通われた聖師さまは、生徒たちからも評判の先生だったようじゃ。

モン 先生といっても子供同士だし、みんなも近寄りやすかったのかなあ。

おじい それもあるじゃろう。生徒が難しい質問をしても、そないなことわしは知らん。調べて明日教えてあげる」とあつ

けらかんと言われる。そんな聖師さまに、みんなが親しみを覚えたようじゃな。

モン 聖師さまって、面白いね！

おじい ははは、確かに



のお。

その後、およそ一年ほどで教員を辞め、今度は隣の家の農家へ奉公に出られたんじゃ。文字の読み書きができた聖師さまはとて重宝がられて、田畑の仕事の他にも、重要な仕事を任されていたようじゃな。

モン お勉強もできるし、働き者だし、子供なのにすごいなあ。

おじい しかし、あるとき、大変な事件が起きてしまっくんじゃ。

モン え、また？ 今度

は何があったの？

おじい 聖師さま十七歳（数え）のときじゃった。

聖師さまの家の隣には、田んぼに水を引くためのため池があつての。それは聖師さまのひいおじいちゃんである久兵衛さんという方が掘った小さな池じゃったんじゃが、あるとき、人が落ちて亡くなつてしまつたんじゃ。

モン それは危ないね！

おじい そのころの上田家は、すでに田んぼも持つておらず、この池の水を使うこともない。そこで聖師さまのお父さんは、いっそのこと埋めてしまおうと考えられたんじゃ。

モン そうね、その方が

安心だね。

おじい じゃが、その池の水を利用していた周りの裕福な農家の人たちが、あの池を埋められては困る、取り上げてしまおう、という計画を企てた。

モン なんだか、良くな

いことしてるなあ。

おじい そうじゃなあ。

それを耳にした聖師さまは、奉公先から休みをもらつて家に帰り、家族に池のことは任せてほしいと頼まれた。それから、十分に調べ物をして準備を万端にし、村の会議では堂々と正しい意見を述べた。立ち向かわれたんじゃ。それに対して大人たちは反論できず、池は取られずに済んだ。そして、村の費用で池に柵を設け、水の利用料として上田家にお米を納めるという契約

書までできた。

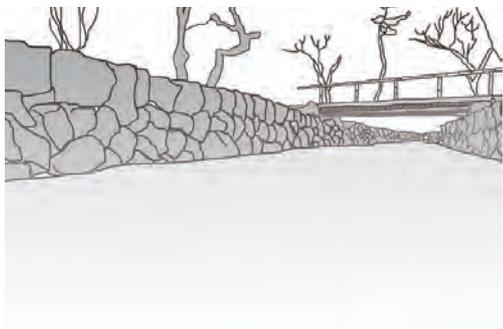
モン わあ、さすが聖師さまねっ！

おじい 地主という強い立場を使って、弱い立場にある農民をしいたげるような行為を許せなかつたんじゃなあ。この一連の出来事は、久兵衛池事

件、といつての、今も大本の中で語り継がれておる。池も、亀岡の瑞泉苑という所にちゃんと残つておるんじゃよ。

モン そうなの！ じゃあ、見に行こうよ。

おじい あ、ああ、また今度な…。



久兵衛池、見てみたい！



瑞泉苑には、聖師さまのこ生家跡があるのであーる



教主さまたちについて分からないこと、疑問に思ったことは、どんどんお手紙で送ってね。待つてまーす！！

〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのよ」編集室
「もつとしりたい おおもと」係

おじいちゃんから聞いた久兵衛池を見に行きたくて仕方がないモンちゃん。その願い、いつかかなうといいですね。さて、聖師さまのその後の暮らしの様子を話し始めるおじいちゃん。モンちゃんも想像を膨らませ、楽しそうに耳を傾けます。



モンちゃん

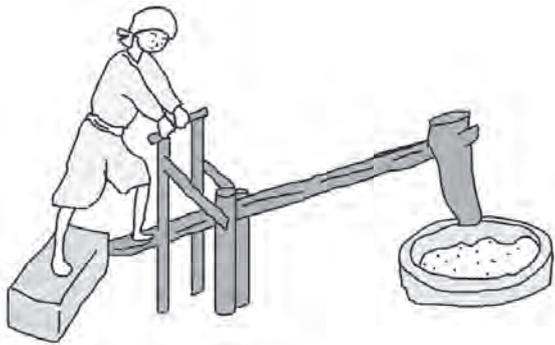


おじいちゃん

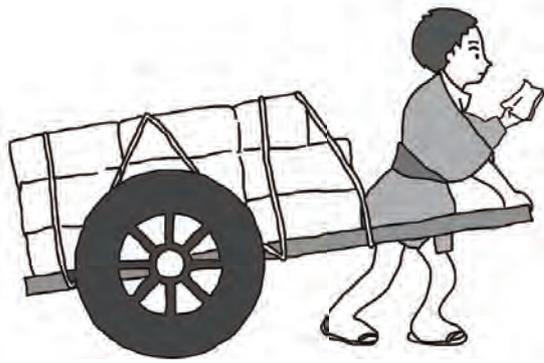


モン おじいちゃん、聖師さまのお話には、いろんな事件があつて、ドキドキだね！
おじい ははは、本当じゃの。今ではなかなか考えられないような工ピンードばかりじゃの。モン そのあと、聖師さまはどんな生活をされていたの？
おじい 聖師さまも、開祖さまに負けないくらい働きの者で、お父さんの農事を手伝われておつたんじゃ。
夜は足踏みをして米をつき、山でしばを刈つては、それを二十キロ以上

も離れた京都の伏見という所まで、荷車を引いて売り歩かれたんじゃ。
モン 二十キロって遠いの？
おじい ピンとこないかもしれないの。車で走ると、だいたい三〜四十分かかる距離じゃ。
モン えええ、そんな長い距離なんだ。歩いたらどれくらいかかるんだ



これな道具で玄米もついて、白いお米にしてたんだって



ろう？
おじい 五時間ほどのころは、そうやって荷車を引いている最中でも、本を読んで勉強しておられたといふことじゃ。
モン え！ 歩きながらずっと？
おじい そう、ずっとじゃ。じゃからの、時には店先の品物を引つか

けて転がしてしまふこともあったといふことじゃ。
モン あははは。想像したらおかしくなっちゃった。本当になんでも熱心なのね。
おじい そして昼間それだけ働いても、疲れを見せず、夜には金剛寺というお寺で開かれていた勉強会にも通っておられたんじゃ。いくらわしが若くても、とてもまねはできんのよ(笑)。
モン 私にもできんのよ(笑)。
おじい その後、二十二歳になった聖師さまは、獣医学の勉強をするために、亀岡から少し離れた、園部という所で獣医をしていた、いとこのもとへ住み込まれた。
モン しゅーいがぐ？
おじい ペットや家畜と

いった動物の病気を予防したり治したりするためのお勉強じゃ。分かりやすく言えば動物のお医者さんになるためのものじゃな。
モン へえ、すごいね。
おじい しかし、牛の世話や牛舎の掃除、牛乳配達など、牧場の仕事ばかりで、ちつとも勉強はできなかつたそうじゃ。それに、勉強のためとはいえ、動物を殺さなければならぬ獣医学が嫌になられての、翌年にはまた亀岡に帰られたんじゃ。
モン 聖師さまは優しいんだね。
おじい それでもその後、いとこに勧められ、獣医試験や、巡査：おまわりさんの採用試験など立て続けに受けられて、すべて合格されたそうじゃ。

まあ、病気を理由にその仕事には就かれることはなかつたんじゃが…。
モン て、天才…。



もっ、おつかいさまで、お手上げです。

教主さまたちについて分からないこと、
 疑問に思ったことは、どんどんお手紙で
 送ってね。待つてまーす！！
 〒621-8686 亀岡市天恩郷
 「みろくのよ」編集室
 「もっとしりたい おおもと」係

おおもと

ん！もどしりだい

××××★××× ⑭

獣医学の勉強をされた聖師さまは、獣医試験、さらには巡査採用試験で全て合格。その天才っぷりにはモンちゃんもあぜん…。それだけではなく、聖師さまはとにかく行動力がすごい！ いろいろな発明にも挑戦されたようです。



モンちゃん



おじいちゃん



おじい それからの聖師さまは、ラムネを作って売るなど、いろいろと新しいことにも挑戦されたようじゃ。どれも成功とはいかんかったようじゃが…。

そしてさまざまな発明もされた。

モン 発明！ すごい、博士みたい！

おじい その一つに、上田式米つき機”というのがある。

モン なんか、かっこいいね！

おじい 前にも話したが、毎晩、夜遅くまで足踏みでお米をつくのは大変な

作業じゃった。それを少しでも楽にしたいと発明されたのじゃ。他にも、いろんな農機具の改良をされたそうなんじゃが…。

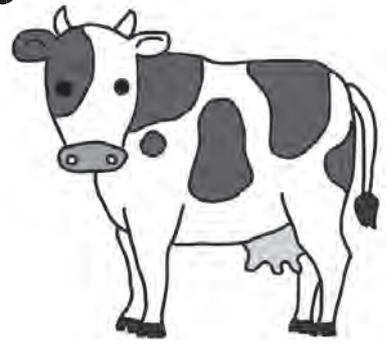
モン …それもあまり、うまくいかなかった…とか？

おじい その通り(笑)。こうした中で比較的、成功を取めたのは、明治二十九年に始められた“精乳館”という牛乳屋さんじゃ。

モン ああ、なんかちょっと安心した。

おじい 牛の世話から乳しぼり、配達なども全部お一人で切り盛りされた

moo~



いっしょにおいっしょ



そうじゃ。獣医学を学ぶに園部へ行かれたときの体験が、大いに生かされたよっじやの。
モン お勉強したことが、ちゃーんと役に立って良かったね。
おじい 何事も、無駄な経験はないということじゃな。
そんな忙しい毎日を送る一方で、聖師さまは文

芸にも励まれるんじや。

モン 文芸って？

おじい 短歌や俳句、句といった歌じゃな。聞いたことがあるかな？

モン あー、おじいちゃんも時々紙に書いて作ってるよね。えーっと、五七：なんとかって、文字の数が決まってるんでしょ。

おじい おお、そういえば、モンちゃんに一度教えたことがあったの。おじいちゃんがよく作っているのは、短歌じゃ。五七、五七、七の文字数で、そのときの自分の気持ちや、心に残った出来事を詠んだりするんじやよ。大昔から日本にある歌の詠み方じゃな。

モン それじゃ聖師さまは、いろんな歌を作るのが上手だったんだね。

おじい そうじゃな。

大本では、短歌や冠雀句をはじめ、茶道、能楽などといった芸術活動が盛んに行われておるが、その基礎となっているのは、こうした聖師さまの文芸への取り組みなんじや。

モン 聖師さまって、なんていうか、普通の人じゃないって感じね(笑)。

おじい ははは。確かにのお。多芸で多趣味、頭も良いが遊びにも熱心。一度にこれだけのことができる人は、なかなか周りにはいないかもしれんの。



一回、お話をしよう！



教主さまたちについて分からないこと、疑問に思ったことは、どんどんお手紙で送ってね。待つてまーす！！

〒621-8686 亀岡市天恩郷「みろくのよ」編集室「もつとしりたい おおもと」係



ラムネ作りや農機具の発明に始まり、ついには牛乳屋を開かれた聖師さま。仕事の合間には文芸活動にも励まれるなど、いろいろな才能をお持ちだったんですね。さて、今回のお話は、聖師さまの人生の、大きな転機につながるエピソードです。



モンちゃん



おじいちゃん



おじい モンちゃん、ここまで、ご幼少のころからの聖師さまのお話を聞いてどうじゃ？

モン うん、なんかいろんなことが起こりすぎて、ワクワクドキドキだったよ！

おじい そうか、それは良かった(笑)。

しかし、精乳館が順調にいき始めたころ、悲しい出来事が起こってしまった。

モン え…、どうしたの？

おじい 聖師さまのお父さんが亡くなってしまったんじゃ。聖師さまは、それはひどい落ち込みよう



聖師さま、かわいそう…

だったそうじゃ。モン それだけお父さんのことが大好きだったんだね。

おじい 親を亡くすとい
うのは、誰にとつても悲
しいことじゃからな。聖
師さまは、その心の寂し
さを癒やすかのようにな
いろいろ教会を訪ね歩
かれたんじゃ。

モン そうかあ。それで
少しは元気が出たのか
なあ…？

おじい 実はその逆で
。教会に行っても、聖
師さまが満足できるよう
な話は聞けなかった。

この時期を境に、小さ
いころから信心深かった
聖師さまは、神さまから
少しく心が離れてしまわ
れるんじゃ。

モン え、神さまが信じら
れなくなっちゃったの？

おじい 簡単に言えばそ
ういうことじゃ。その代
わり、弱い者いじめをし
ている人が許せず、どこ

かでけんかが起こるとす
ぐに飛んでいって、もめ
事を解決するという、い
わゆる人助けのようなこ
とをされるんじゃが…。

モン へえ、すごいね。
さすが聖師さま！

おじい しかし、助けた
人からは喜ばれたが、一
方からは恨まれた。それ
である日、聖師さまをよ
く思っていないかった人た
ちから仕返しをされたん
じゃ。

モン えええ、大変！

おじい 傷だらけになっ
た聖師さまは、ご自分の
小屋で頭を抱え布団をか
ぶっておられた。そこへ、
祖母の宇野さんと母親の
よねさんが来られた。

モン おばあちゃんとお
母さんも、びっくりした
だろうね…。

おじい 宇野さんは、聖

師さまに向かつて、人助
けといつて、助けたより
も十倍も二十倍も人に恨
まれては何にもならない。
この世に神はないなどと
言つて、その報いが今ま
たのだ。昨晚のことは神
さまのお慈悲のムチだか
ら、あの人たちのことを
恨んではならない」と、
しっかりと諭されたんじゃ。

モン そのとき、聖師さ
まはどうしていたの？

おじい 宇野さんの言葉
は、聖師さまの胸に深く
響いた。これまでのご自
分の行いを泣きながら反
省されたそうじゃ。もし
て、ここから、聖師さま
の人生は大きく変わって
いくことになる。

モン えっ、何がどうな
るの？ 早く聞かせて！

おじい その前にちよつ
と一服じゃ。



きょうしゅ
教主さまたちについて分からないこと、
疑問に思ったことは、どんどんお手紙で
送つてね。待つてまーす！！
〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのよ」編集室
「もつとしりたい おおもと」係



ねえ、
早く聞かせてこみよ

スズス〜

やつぱりお茶は最高じゃの〜

聖師さまのお父さんが亡くなった際のエピソードを聞き、ちょっと切ない思いを抱いたモンちゃん。その後の聖師さまのことも心配に思いつつ、話に耳を傾けます。果たして、聖師さまの人生の大転機とは…？



モンちゃん



おじいちゃん



モン ねえねえ、聖師さまはいつたいどうなっちゃったの？ 早く聞かせて！

おじい まあまあ、そう慌てるな。

おばあさんに諭され、心を入れ替えた聖師さまは、明治三十一年旧二月九日、新しい暦でいうと、三月一日になるんじやが、気が付くと、高熊山という山の岩窟に座っておられたそうじや。

モン え…、どういうこと？

おじい ここからは、なかなか普通では考えられないようなことが起こっ

てくるんじやが、神さまの使いである天使に導かれ、高熊山に登られたそうじや。高熊山がどこにあるか、モンちゃんは知っておるかの？

モン 知らないなあ。





おじい 聖師さまがお生まれになった家のすぐ近くじゃ。

モン あ、聖師さまのおうちといえ、久兵衛池のある所ね！

おじい そうじゃ、そうじゃ (笑)。

その山の中腹にある岩窟に座られ、神さまから与えられた修行を始めたんじゃ。

モン どんな修行なの？

おじい 寒空の下、襦袢一枚で、一週間何も飲まず、食べることもせず座り続けておられたんじゃよ。ちなみに襦袢というのは、着物の下に着る肌着じゃ。何とも厳しい修行ということが分かるじゃろう。

モン ええ、一週間も何も食わず、しかも、そんな薄着で…。私だったら大声出して泣いちゃうなあ。

おじい おじいちゃんも、耐える自信がないの。しかも、この修行よりはるかにつらかったのは、神界での霊的な修行じゃとおっしゃっておる。

モン どういふこと？

おじい 岩窟の中にずっと座っている…これは現界での肉体的な修行じゃ。しかし座っておられる間、聖師さまの魂は神さまの

世界で修行をしておられたんじゃよ。一時間、神界で修行をされると、二時間、現界の修行に戻られるそうじゃ。

モン え、じゃあ、聖師さまの魂は、この世界と、神さまの世界を行ったり来たりしてたってこと？

おじい まあ、そういうことじゃな。

モン うわあ、本当に不思議なことばかりだなあ…。

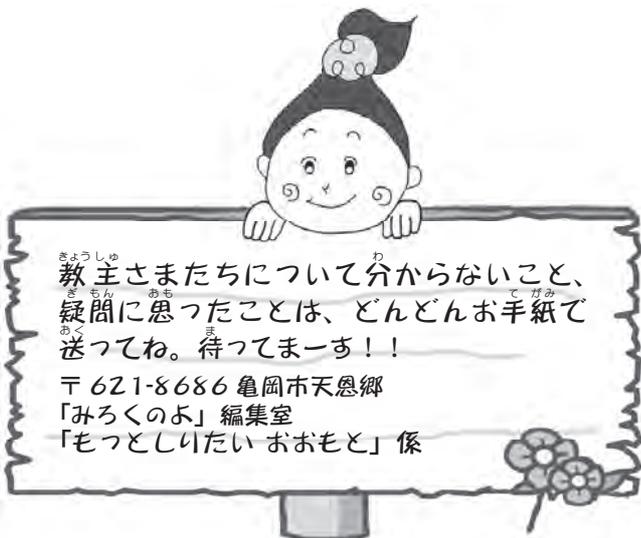
じゃあ、神さまの世界ではどんな修行をしたの？

おじい うーん、一言で言えば、霊界探検というところかのお。

モン え、霊界探検！

…どういふこと？

おじい ははは。では、ゆっくりと話して聞かせてやろうかのお。



教主さまたちについて分からないこと、疑問に思ったことは、どんどんお手紙で送ってね。待ってまーす！！

〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのよ」編集室
「もつとしりたい おおもと」係



あー、ちっちゃいこー、

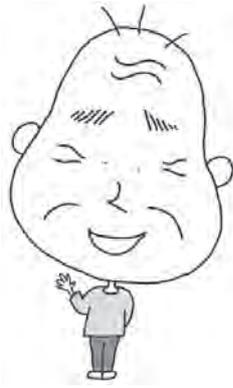


いざ、しゃっほーっ！

「霊界探検…」。おじいちゃん言葉にワクワクが止まらないモンちゃん。不思議なことだらけの高熊山修行、さて、その内容はどんなものなののでしょうか。おじいちゃんが詳しく聞かせてくれます。



モンちゃん



おじいちゃん



モン ねえ、おじいちゃんおじいちゃん、霊界探検って、どういうこと？

おじい 霊界というところは、天界、中有界、地獄界という三つに分かれておるんじや。それぞれ、どういう世界か、想像がつくかな？

モン うーん、天界は天国ってこと？ 地獄界は怖いところよね？

おじい まあ、そうじやな。天界は、正しい神々さまや人々の魂が住まわれているところじや。地獄界は悪い神さま、また、良くないことばかりしておった人たちの霊魂が落

ちてしまう世界じやな。

モン じゃあ、中有界は？

おじい 天界と地獄界の中間にある世界じや。人は亡くなるとまずこの世界に行き、五十日間ほど過ごす。その後、天界に行くか、地獄界に行くかが決められるのじや。

モン へえ、死んだ後って、そんな仕組みになってるんだね。

おじい 聖師さまは、この修行で、地獄界から天界まで、さまざまな霊界の様子を神さまから見せられたんじや。

モン ええ、地獄まで…怖かっただろうなあ。



おじい そうじゃなあ。
高熊山での肉体的な修行
 よりも、数十倍も苦しかった
 そうじゃから、それは
 壮絶な体験なんじゃろう
 なあ。
 しかし、現界での修行
 だって、普通の人では決
 して耐えられんことじゃ。
 聖師さまはこの現界的苦
 行で、生あるものの尊さ
 や天地のご恩を悟られ、

感謝の生活を送ることの
 大切さを学ばれたんじゃ
 よ。

モン どうついでよ？

おじい 襦袢一枚で岩の
 上に無言で正座しておら
 れる最中、山が崩れるよ
 うな大きな音や、動物の
 声ではない、何ともいえ
 ない恐ろしい声が聞こえ
 ておったそうじゃ。キツ
 ネでもタヌキでもいい、
 とにかく生きた動物が出
 てきて、その声を聞かせ
 てほしいと願われた。そ
 んなとき、ガサガサと足
 音をさせて、大きな熊の
 ような黒い影が、聖師さ
 まのすぐそばまで迫って
 きたんじゃ。
モン え、危ない、逃
 げて〜！
おじい 聖師さまも、瞬
 間的に恐怖を抱かれたが、
 シンとなったら何事も天に

お任せしよう」と覚悟を
 決められた。するとどう
 じゃ、恐ろしいと思っ
 たその姿が大きな力となり、
 うなり声が恋しく、懐か
 しくなったと言われてお
 る。

モン うーん、なんかす
 ごいお話だね〜。

おじい 聖師さまはこの
 出来事を通して、世界一
 切の生き物に、お優しい
 神さまの魂が宿っている
 のだと感じられたんじゃ。
 そして、人は神であり、
 互いに憎しみ争うことな
 く、助け合ってゆくべき

ものだと悟られたんじゃ
 な。

モン なるほど。とて
 も大切な経験をされたっ
 てことだね。

おじい そうじゃな。そ
 して、次にありがたく感
 じられたのは、水だった
 そうじゃよ。

モン ふむふむ、それは何
 となく分かる気がするぞ
 …。



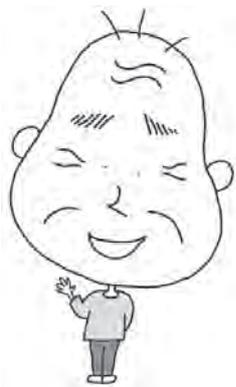
教主さまたちについて分からないこと、
 疑問に思ったことは、どんどんお手紙で
 送ってね。待つてまーす！！

〒621-8686 亀岡市天恩郷
 「みろくのよ」編集室
 「もつとしりたい おおもと」係

高熊山での修行中、霊界探検という大変な体験をされた聖師さま。しかしそれだけではなく、肉体的な修行では、世界一切の生あるものへの慈愛や、天地のお恵みに対する感謝の心が強く芽生えられました。



モンちゃん



おじいちゃん



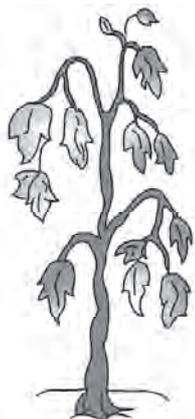
おじい お水のありがたさ…、さあモンちゃん、どういふことが分かるかな？

モン お水がなければ、人間も動物も、花も木もみんな生きていけないよな。

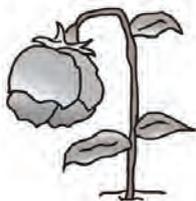
おじい そうじゃな。毎日口にしてる野菜もお米も、みんなお水がなければ育たん。

モン 聖師さまはどういうふうな、そのありがたさが分かったの？

おじい さっき話した通り、修行中は一滴の水を飲むことも、食べ物を口にすることも許されな



あ、お水がほしいの…



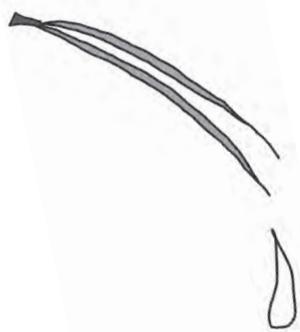
喉が渇いたなあ…

かつたんじや。徐々に喉は渴きだし、大変な苦痛であつたと書かれておる。モン そうだよな。喉が渴いてるのに飲めないって、すごおしくつらいもん。

おじい たとえ泥水でもいい、喉を潤すものがほしいと願われても、水気を含んだ葉っぱ一枚さえ口にすることはできない。次第におなかもすき、気力も弱つてきたそのとき、ふと、雨上がりの空を見上げられたんじや。

モン うんうん。おじい その途端、風に揺られた松葉から、ポトポトと聖師さまの唇に水滴が落ちてきたんじや。何気なくなめたその松の露の味は、何とも言えないおいしさだったそうじや。

モン 飲みたくても、ずくっと我慢してたんだもんね。本当においしかったんだらうなあ。おじい そのとき聖師さまは、普段の生活の中で、こんな結構なお水を沸かし、熱いだのぬるいだのと文句を言うくらいもつたいないことはないとお水のご恩を実感されたんじや。



甘露とも何ともたごえられぬおいしさ…なつたそうじや



モン そっか。お水って、台所に行けば蛇口からすぐに出てくるし、当たり前にあるものだと思つてたけど、こうしてすぐに飲めるって、とてもありがたいことだったのね。

おじい そうじやよ。特に日本は、災害などよっぽどのことがない限り、何の不自由もなくお水が使える。これは世界的に見ても、非常に恵まれてゐることなんじや。だからこそ、感謝をもつて大切にに使わせていただかんとな！

モン うん、分かった！歯を磨いたり顔を洗ったり、あと、手を洗ったりするときは、気を付けながら使うようにするね！おじい さすがモンちゃんじや！



朝の歯磨きと洗面は、コップ一杯のお水で済ませるのみ！

きょうしゅ 教主さまたちについて分からないこと、疑問に思つたことは、どんどんお手紙で送つてね。待つてまーす！！
〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのよ」編集室
「もつとしりたい おおもと」係

修行の中、お水のご恩を強く実感された聖師さまの話聞き、何の不自由もなくお水を使えることのありがたさを学んだモンちゃん。歯磨きや洗面など、普段の生活の中でも、大切にお水を使わなければならないことに気付きました。



モンちゃん



おじいちゃん



おじい いかにお水みずが
 りがたいか、よく分わかっ
 たじゃろう、モンちゃん。
モン うん！
おじい では次つぎに、聖師せいし
 さまが、衣食住いしょくじゅうよりも人
 間にんげんにとつてありがたいも
 のがあるとおっしゃって
 おる。それは何か分かる
 かな？
モン 衣食住いしょくじゅうって？
おじい 衣は服ふくのこと、
 食は食たべ物もの、住は住すむ所ところ
 ……家いえじゃな。
モン なるほど。うん、
 どれもなかったら困こま
 るし、ありがたいものだ
 と思おもうんだけど、それよ
 りも大事だいじなもの…何なんだろ

う？
おじい 正解せいがいは、空くう気き
 じゃ。
モン 空気くうき？
おじい そうじゃ。聖師せいし
 さまは、「飲食物いんしょくぶつは十日
 や廿日はつかくらい廃はいしたとこ
 ろで死ぬしぬような事ことはめつ
 たにないが、空気くうきはただ
 の二に、三分間さんぶんかんでも呼吸こきゅうせ
 なかったならば、私たち
 に死しんでしまふより途みちは
 ない。自分じぶんがこの修行しゆぎょう中
 にも空くう気を呼吸こきゅうすること
 だけは許ゆるされたのは、神かみ
 様の無む限げんの仁慈にじであると
 思おもった」と書かかれておる。
モン 確たしかにそうだね。プ
 ールや海うみでも、水みづの中

でそんなに長く息を止めて
いられないもんね。
おじい 普段の生活の中
で、そこまで意識するこ
とはないかもしれんが、
どんなに食べ物があつて
も、空気がなければ、人
間はとうてい生きてはい
けないのじゃ。衣食住の大
恩を知ると同時に、空気
のご恩に感謝しなくては
ならないと、聖師さまは
言っておられる。



一分でもきしいかも、

きやいけないんだなあっ
て思ったよ。
おじい モンちゃん偉い
ぞ、その通りじゃ！ モ
ンちゃんがそこまで理
解できたのなら、聖師さま
はきつとお喜びじゃなあ
。



へん子じやの、
あ、おしよし

おじい そうじゃなあ。
そうやって、つらく、苦
しい修行を終えられ、一
週間後に高熊山から下山
されたんじゃ。突然姿を
消された聖師さまを探し
ていた家族は、「どこに
行っていったのか」と口々
に尋ねたそうじゃが、聖
師さまは「神さまに連れ
られ、ちよつと修行に行っ
てきた」とだけ答え、麦
飯を二、三杯食べると寝て
しまわれたそうじゃ。

モン そっか！ 家族の
人も聖師さまが修行して
いるなんて知らなかった
んだ。突然いなくなるし、
突然現れるので、家族も
びっくりしただろうね。
おじい 本当じやの、
(笑)。さぞかし、安心さ
れたことじゃろう。
モンちゃんも、突然い
なくなつちゃ、ダメよ！

きょうしゅ
教主さまたちについて分からないこと、
疑問に思ったことは、どんどんお手紙で
送ってね。待つてまーす！！
〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのよ」編集室
「もつとしりたい おおもと」係



モンちゃんがいなくなつたら、
どうしていいか...うっ、うっ



いなくなりましたから...

おおもと

ん！もどしりだい

××××★××× ②0

高熊山から下山された聖師さま。家族の心配をよそに、神さまの教えを広めるため、早速、宣教活動に励まれます。そしてある日、ある所に行くようにとの神さまからのお告げが…。モンちゃんも、なんだかワクワクしてきたようですよ。



モンちゃん



おじいちゃん



おじい 高熊山の修行を
終えられた聖師さまは、
その後、神さまの教えを
広める大切なご用に専念
されるようになった。
モン 高熊山で体験した
ことを、みんなに伝えるっ
てこと？
おじい まあ、分かりや
すくいえばそういうこと
じゃ。修行を通して、こ
の世界と人々を救わねば
ならないことを悟られた
んじゃな。
モン なるほど。私は
毎日楽しく暮らしてるん
だけど、救わなきゃいけ
ないようなことが世界で
は起きてるってしゅか。

おじい ふむ。鋭い質問
じゃな。世界にはたくさ
んの国があるが、その中
には平和に暮らせる国と
そうではない国がある。
日本に住んでいると分か
りづらいが、毎日、どこ
かで爆弾が爆発したり、
銃弾が飛び交ったりと、
戦争を繰り返している国
もあるんじゃ。



怖い思いをしている人たちが
たくさんいるんだね...



……

モン え！ そんな怖い
ことが、毎日…？

おじい そうじゃ。そう
いった国では、食べ物や
水も不足し、ケガや病気を
しても、まともな治療
もできない。それで命を落
としていく子供たちだっ
てたくさんいるんじや。

モン そんなにひどいこ
とが起こってるなんて…。

おじい 争いがなくなら
ないのは、戦争が無意味
で愚かなことだと気付か
ない人間がたくさんいる
からじゃ。たとえ戦をし

ていなくても、自分たち
の思い通りにしたいがた
めに、弱い者を犠牲にし
るといふ人たちも多くな
る。残念なことじゃがの
…。

モン そんな世の中を良
くするために、神さまの
教えを広めなきゃいけな
いってことなんだね。

おじい その通りじゃ。
その使命を果たされるた
め、聖師さまはいろいろ
な活動を開始されるん
じゃが、ある日、家の近
くにある小幡神社とい
うところに参拝に行かれ
た

んじや。そのとき、一
日も早く西北の方をさし
て行け。神界の仕組がし
てある。お前のくるのを
待っている人がいる」と
いう、神さまからのお告
げがあったんじや。
モン えっ！ すげえね。

おじい 西北とはどこの
ことじゃと思う？

モン うーん…、分か
らない。

おじい ははは、そりゃ
そうじゃな。これは綾部
がある方角じや。

モン 綾部って…大本が
あるところだよな。この
前、春のお祭りのお参り
に行ったもん。

おじい 正解じゃ。その
綾部には、どなたがいらっ
しやると思う？

モン え、また問題？ (汗)
えーっとね、うーんとね
…。はっっっ！ 開祖さ
ま？

おじい 大正解じゃー！

モン じゃあ、開祖さま
が聖師さまのことを待っ
ておられるってことな
の？

おじい またまた大正
解！

この綾部は、
まがねのこにや…ふんふん



開祖さまの聖師さまって
お友達なの…？



とゆこと…？

教主さまたちについて分からないこと、
疑問に思ったことは、どんどんお手紙で
送ってね。待ってまーす！！

〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのよ」編集室
「もつとしりたい おおもと」係

開祖さまと聖師さまはお知り合い…？ そんな疑問を抱きつつ、興味津々でおじいちゃんの話に耳を傾けるモンちゃん。いろいろなエピソードを聞きながら、頭の中でさまざまな想像を膨らませるのでした。



モンちゃん



おじいちゃん



モン ね、開祖さまと聖師さままつてお友達だったの？

おじい いやいや、お互い会われたこともないのさ。

モン え？ でも、開祖さまは待っておられたんだよね。

おじい そっじゃな。

モン も、どういこうとか早く教えてよ。

おじい ははは。ごめん、ごめん。

聖師さまが小幡神社にお参りされた際、神さまのお告げがあったと話したじやろう。同じように、開祖さまも、お筆先を通

して神さまから「なおの力になる人をこしらえてある」ということを聞いた





ておられたんじや。
モン なるほど。神さまがちゃんと会えるようにしてくれてただう。
おじい そういうことじやな。

さて、身近な人たちに別れを告げ、綾部へと出発された聖師さまは、途中の八木という地域に差し掛かったところで、茶店に寄られるんじやが、そこで一人の女性から声を掛けられた。
モン 開祖さま？
おじい 違う違う（笑）。
 実は、開祖さまの三女・ひささまだったんじや。

モン え？ 開祖さまの娘さんがなんでそんなところに？

おじい ひささまは、八木の福島家にお嫁に行かれ、夫婦でその茶店を営んでおられた。そこへ、ちよつと変わった格好をされた聖師さまが入ってこられたもので、目に留まったんじやろうなあ。

モン 変わった格好？

おじい お歯黒といって歯を黒く塗り、コウモリ傘にバスケツト…。

モン 歯を黒く…。ほんとか、変なの（笑）。

おじい そんな聖師さまに、あなたは何をなさる人ですか？と声を掛けられると、聖師さまは、神さまを見分けるのが仕事ですと答えられた。するとひささまは、お母さんである開祖さまにどん



そりや、お母さんのこと心配だね。うかうか…

な神さまが懸かっているのかを調べてほしいと頼まれ、聖師さまにお筆先を見せられたんじや。

モン そっか、ひささんは、お母さんのことが心配だったんだね。

おじい そうじや。茶店を開きつつ、神さまを見分ける人を探しておられたんじやな。

モン それで、聖師さま

はどうしたの？

おじい 近いうちに行つてみましようと言われ、数日後、いよいよ、綾部の開祖さまを訪ねられたんじや。

モン え、それでそれで？

おじい まあ、とりあえず、ここまでじやな。



教主さまたちについて分からないこと、疑問に思ったことは、どんどんお手紙で送ってね。待つてまーす！！

〒621-8686 亀岡市天恩郷
 「みろくのよ」編集室
 「もつとしりたい おおもと」係

開祖さまと聖師さまの出会いについて、熱心に話を聞くモンちゃん。最初の出会いは、モンちゃんが想像していたような場面ではありませんでしたが、どんどん展開していくおじいちゃんの話に、引き込まれていくのでした。



モンちゃん



おじいちゃん



おじい ひささまとの出
会いから数日後、いよいよ
よ、聖師さまは綾部の開
祖さまのもとを訪ねられ
た。
モン うんうん、それで
それで？ すぐに、お友
達になれた？
おじい それがじゃ、こ
のときはまだ、ちよう
どよいタイミングではな
かったようで、聖師さま
はわずか三日で綾部を後
にされたんじゃよ。
モン え、そうなの？
やっと待っていた人が来
たのに…。
おじい 神さまの世界の
ことじゃからなあ。わし

モン じゃあ、聖師さま
ら人間には分からないお
仕組というものがあるん
じゃろうなあ。
モン じゃあ、聖師さま



何事も、グッドタイミング
こういうものがあるんじゃあ、



せつかく念をこら
うのじ…なせだろ



脚祖さまのお腹いじり参りしました

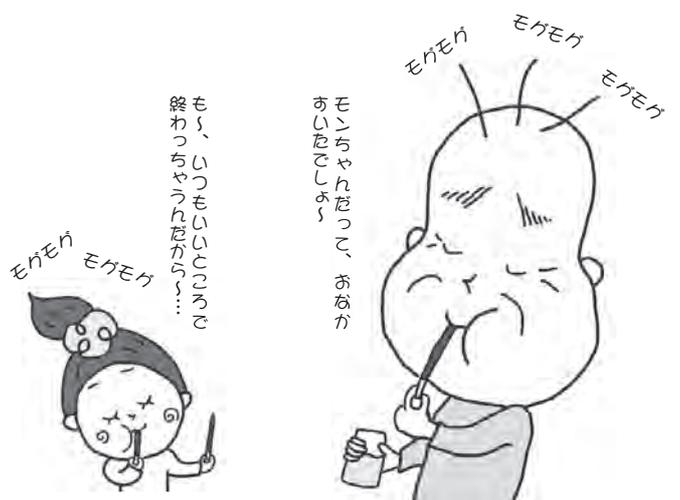
はまた亀岡に帰っちゃったの？
 おじい いやいや、亀岡には帰らずに、その途中にある園部に滞在されたんじや。その昔、獣医学の勉強のために住んでおられた所じや。
 モン そうなんだ。何のために？
 おじい 神さまの教えを広めるためじやよ。そのお力を目の当たりにして、聖師さまを敬う人たちも増えていった。

モン やっぱり聖師さままで参りんだね。
 おじい それからしばらくたったある日のこと、聖師さまのもとに、四方平蔵という人が訪ねてきたんじや。
 モン ふむふむ。…誰？
 おじい 開祖さまのお使いで、綾部から聖師さまを迎えに来られたんじやよ。
 モン え！ それじやいよいよ…。
 おじい そうじや。聖師さまはもう一度綾部に行かれることを決心された。そして、綾部行きに当たってご家族にあいさつされるため、約十六キロの道のりを歩いて穴太まで戻り、おばあちゃん、お母さんにあいさつし、小幡神社にお参りして、再び、園部まで戻ってこられた。

しかも、一晩のうちにじや。
 モン え！ 夜の間に行って、また帰ってきたの？
 おじい そうじや。しかもそのことを、平蔵さんは知らなかったそうじや。
 モン え、平蔵さんが寝ている間になってこと？
 おじい そしていよいよ綾部へ出発する準備が整ったんじやが、このときの、聖師さまと平蔵さんのエピソードもなかなか不思議なことが多くての。
 モン そうなの！ どんなこと？
 おじい その前に、ちよつとおやつでも食べない？
 モン も、しょうがないなあ、おじいちゃん…。



教主さまたちについて分からないこと、疑問に思ったことは、どんどんお手紙で送ってね。待つてまーす！！
 〒621-8686 亀岡市天恩郷
 「みろくのよ」編集室
 「もつとしりたい おおもと」係



開祖さまのお使いとして綾部からやってきた四方平蔵さんと出会い、再び綾部行きを決意された聖師さま。いよいよ出発のときを迎えましたが、ここでもいろいろと不思議なことが起きてしまうのです。



モンちゃん



おじいちゃん



おじい ふう、おいしかったの。おなかいっぱいじゃ。モン ねえねえ、どんな不思議なことが起こったの？
 おじい ん？ おお、そうじゃった、話の続きじゃな。さつそく綾部へと出発された聖師さまと平蔵さんは、途中、旅館で一泊されたんじゃが、その夜は雷を伴った大雨が降り続いておったそうじゃ。
 モン 雷か。怖いね。
 おじい 翌日に出発できるかどうかを心配する平蔵

蔵さんに聖師さまは、明日の午前九時までは力ラリと晴れる」と断言されたんじゃ。

あ、おへそなこ
ぬいごま



モン それで、結果はどうだったの？

おじい もちろん、カリと晴れたそうじゃよ。

モン わあ、さすがだね！

おじい ははは。そうじゃなあ。しかも、それだけじゃないぞ。綾部にある平蔵さんの実家の様子を詳しく話されたんじゃ。

モン え？ 行ったこともないのに？

おじい そうじゃ。聖師さまは高熊山の修行の折、天眼通といつて、あらゆるものを自由自在に見通すことができる力を神さまから授かっておられる。そのお力で、平蔵さんの家の様子も手に取るようにお分かりになったんじゃ。

モン そんなことされたら、平蔵さんビックリだ

ね。

おじい もちろん、ビックリじゃ。平蔵さんも怪しい力によるものではないかと疑われたそうじゃが、聖師さまは、決してそうではない。あなたにも見せてあげよう」とおっしゃり、今度は平蔵さんに聖師さまの家の様子を見せられたそうじゃ。そして、その力が怪しいものではなく、神さまから授けていただいたものだということを説明されたんじゃよ。

モン ほんと、不思議なこと連続ね。

おじい 平蔵さんは、聖師さまの偉大なお力にすっかり感心され、喜び勇んで、綾部までのお供をされたそうじゃ。

モン あ、私も天眼通、体験してみたい！



きょうしゅ
教主さまたちについて分からないこと、
疑問に思ったことは、どんどんお手紙で
送ってね。待つてまーす！！
〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのよ」編集室
「もつとしりたい おおもと」係



©やまぐちのりこ
2009

聖師さまと平蔵さんのエピソードに、興奮しきりのモンちゃん。その後、無事に開祖さまと再会された聖師さまがいよいよ大本入りをされ、ホッと一安心するのです。さあ、おじいちゃんの話もどんどん進み、聖師さまはひとまずここまで。次は…？



モンちゃん



おじいちゃん



おじい さあ、聖師さまと平蔵さんは、いよいよ綾部に到着された。

モン 開祖さまと聖師さま、また会えて良かった！

おじい そうじゃな。九カ月ぶりのご対面じゃった。そしていよいよ、聖師さまが大本に入られたんじゃ。開祖さまが六十二歳、聖師さまが二十七歳のときじゃ。

モン おお、とうとう、その日がきたのね。開祖さまも、うれしかっただろうなあ。

おじい このとき、お筆先に「なおのまこと力になるお方であるぞよ。」



開祖さまと聖師さまが
おそろいにならなう



なおよ、安心いたされよ」と神さまのお示しがあったそうじゃ。聖師さまが入られ、開祖さまもとても心強く思われたじゃろうなあ。さらに、平蔵さんにも、神さまからお褒めのお言葉があったそうじゃよ。

モン えっ、そうなの！
おじい 「大望な御世話して下されて、誠に結構で在るぞよ。万古末代名の残る御世話であるぞよ。この事成就いたしたら、御礼申すぞよ」。平蔵さんは神さまから、お礼を言われたんじゃぞ。すごいじゃろ。

モン ほんと！ 神さまからお礼言ってもらえるなんて、すごいね！
おじい お二人が出会われ、聖師さまが大本に入

られるというところが、どれほど大切な神さまのお仕組であったかが分かるの。

モン じゃあ、それから
おじい 聖師さまは大本で神さまの教えを広めていったの？

おじい そうじゃ。それに先立ち、まずは組織を整えることから始められたんじゃ。

モン 組織って？
おじい 活動しやすくするために、決まり事を作ったり、仕事の役割分担をしたりすることじゃ。初めは、「大本」ではなく、「金明会」という名前だったんじゃ。そして開祖さまは教主、聖師さまは会長と呼ばれていたそうじゃよ。

モン へー、そうなんだ

ねー。大本が出来上がるまでに、いろんなことがあったんだね。
おじい そうじゃなあ。ここから大本はどんどん大きな教団になっていくんじゃが、聖師さまのお話は、ひとまずここまでとしよう。

モン え、じゃあ次は？
おじい さあ、どなたで



なせが、おじいちゃんか下や顔〜…

神さまにほめられるみたい



ふふん

もういっや、あんなにめんどい



教主さまたちについて分からないこと、疑問に思ったことは、どんどんお手紙で送ってね。待つてまーす！！
〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのよ」編集室
「もつとしりたい おおもと」係